平成 29 年度教員の教育力向上のための授業改善研修会　発表報告

発表者　　三 橋 純

公開授業（分野）：　映像論　（**共通科目**／専門科目）
対象学年（履修区分）：　2・3 年　（必修／**選択必修**）
公開日時：　平成　29 年　7 月 10 日（　月　）　5　限

■公開した授業の該当科目全体における位置づけ・進め方や工夫した点

授業概要 : 映像を中心とする映像表現及びメディアアートについて学ぶ。
映像を中心としメディアアートへ至る全般を理解し、次世代の芸術表現について展望をもてるようにする。20 世紀芸術をメディアアートの文脈に沿わせながら、写真・映画を始めとした映像作品からビデオアート・プロモーションビデオ・ミュージッククリップ・コマーシャルメッセージ（CM）も織り交ぜ、新しい映像表現を検証する。授業方法は、作品例をプロジェクターなど視聴覚機器を使用した講義を中心とし、プレゼンテーションと映像鑑賞の連携によって講義が進められる。

到達目標 :
① ゲームやマンガ、アニメなどの技術や理論の変遷を学び、表現メディアとしての歴史的裏付けができる。
② 自分が志向している趣味を尊重し「消費者」「知的財産に関する知識」を学びながら、表現の広がりや可能性を発見する。
③ 技術と表現、そしてメディアに対する興味を膨らませ、積極的にデジタル環境に慣れ準備ができる。
④ 空想したり妄想していることを創作につなげる工夫や技術を提案し、就職や社会貢献に意識的になることができる。

到達目標に掲げている「①ゲームやマンガ、アニメなどの技術や理論の変遷を学び、表現メディアとしての歴史的裏付けができる。② 自分が志向している趣味を尊重し「消費者」「知的財産に関する知識」を学びながら、表現の広がりや可能性を発見する。」を挙げている様に、受講生の多くが 1995 年周辺またはそれ以降の生まれで、今回公開した「セカイ系」「0（ゼロ）年代の表現」は、まさに受講生たちが物心がつき美術や表現に興味関心を持つ時期であるため、メディアの変遷やコンテンツの変化、事件・災害や世相と社会が表現に関係していることを紹介している。

そういった自身を取り巻く環境が、創作においてのコンセプト形成に大変意味があることだと考えている。

進め方はほぼ一方的であるが、講座の内容が専門的過ぎない様に心掛けており、また語り口が単調にならない様に、話の中に映像作品や情報映像を違和感なく挿入することで、全体の流れをスムーズにすることに心掛けている。また専門用語の解説など、丁寧に分かりやすい言葉を使おうとしているが、更に改善の必要がある。更に、大教室であるため、歩き回ってマイクを回したりする時間の余裕がない。また本学の学生は大勢の中でマイクを向けられて話すことを良いとしていない。コミニュケーションを積極的に取る授業は専門科目の方で行なっているので、講義科目に関しては今後のアクティブラーニングの積極的な導入の検討を考えている。

■参観者や研修会での意見交換を踏まえ、次年度への改善計画等

Q.　映画等をどのぐらい見てどう感じているのかを知りたいと思った。
A.　最終レポートを講義内容に沿った 20 本の映画から複数本を選び、その共通点や感じたところを主体的な言葉で記述するようレポートさせ評価している。またその他に、お薦め映画 100 本のシートを渡してもいる。

Q.　印象派が内的な世界を描いていると話されてましたが象徴派の言い間違いかと思いました。
A.　映像論の初回の授業で 19 世紀芸術や産業革命、ニーチェやフロイトの紹介をしています。その中で写真黎明時の話に沿わせながら、宗教絵画・サロン画家・写実主義・印象派・象徴主義の話をしています。13 回目の公開授業ではその話をしないまま伝えたので、誤解を生んでしまったと思います。今後は簡略化せずに丁寧に何度でも話をしなければいけないと考えております。
Q.　（セカイ系を）同時代的な思潮として認識ておられるのか、批評的なスタンスが知りたい。
A.　ここでは多くの受講生が 0 年代に小・中学生を送って来たため、物心が付いたときに色々なメディアに触れていることを伝えるために紹介例としました。セカイ系＝0 年代の表現が時代の先端ではなく、寧ろ今となっては「複合災害後の芸術」「シンギュラリティ [2045]」「AI・AR・VR」などの話を盛り込んだ最終授業を行なっています。

・「レジュメが説明不足で、簡単な内容紹介のコメントが欲しい」「レジュメが細かい。作品の相関図や授業内容で関わったものを別途に欲しかった」「レジュメの文字や情報が小さい。読み直したいのにもったいない」などのご意見が多かった。レジュメはモノクロにするよりカラー印刷紙した方が持って帰ってくれる。しかし両面カラーにするのは経費がかかるそうで、簡易印刷の提案をした。PDF で配布は著作物の侵害の恐れがあるので、たとえ教育上とはいえ回避したい。聴覚障害の学生対応として音声テキスト入力をテストしているが、Google ドキュメントや iOS Siri や Mac os 音声入力など行なっているが認識識字率が悪く苦戦している。電子黒板の有効活用とともに今後もテストして行きたい。
今後の改善案：手元ライトとして安いセンサー LED ライトをテスト運用してみようと思う。
「『この作品知っている人』『見たことある人手を上げて』とか、コミュニケーションをとって欲しい」「赤枠で重要部分を示され、その解説も加えていたのですが、もう少し時間とって欲しい」「赤枠の部分は文言を追って読んでみても良いかと思います」などの意見も多く、アクティブラーニングを考慮してゆきたい。wifi 環境が整えば、非公開 twitter で意見をやりとりしたり、Pool Sketch などを試験運用してみようと思っている。

■その他　　特になし